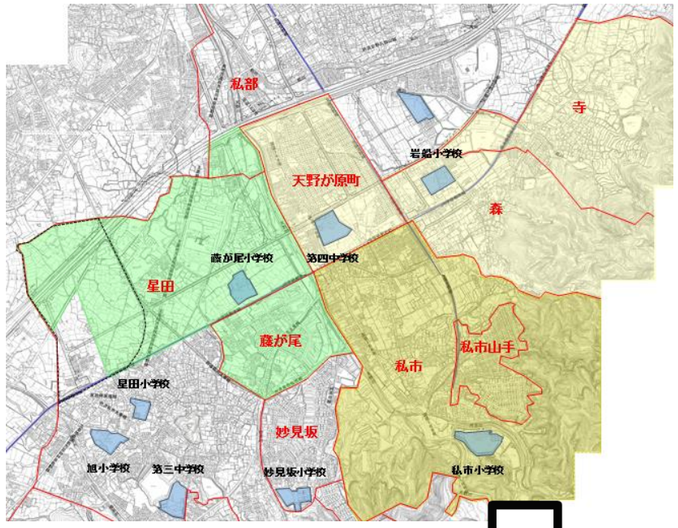
参考資料２４

R03.01.29版

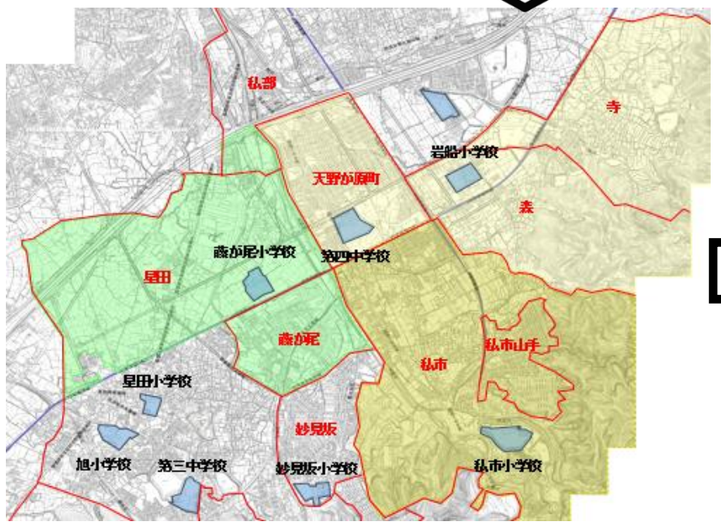
第四中学校区の適正配置案

第四中学校区の適正配置案

校区図（令和2年現在）



校区図（令和３年４月以降）



～第四中学校区の課題～

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

藤が尾小学校

~~将来的に小規模化する見込みである~~

星田駅北の住宅開発の影響により、小規模化の課題は解消する見込み

※私市小学校は、推計上R27年度時点で適正規模を維持する見込みであるが、児童数の減少傾向を考慮すると、その後は、小規模化する可能性は考えられる。

※学校施設については、岩船小学校で築後48年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

学校適正配置案

案名称	現状の課題 （星田駅北の影響により、解消される見込みの課題は、取り消し線により記載）	学校の適正配置までの動き	統合後の学校の位置	メリット	デメリット
学校統合案(8)	① 将来的な 岩船小学校 の小規模化	**岩船小学校・私市小学校 を統合**	**岩船 小学校 敷地**	・課題①が解消される。	・岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。 ・通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）
学校統合案(9)			**私市 小学校 敷地**	・課題①が解消される。 ・私市小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。	・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.9km）
学校統合案(10)		**岩船小学校・藤が尾小学校 を統合**	**岩船 小学校 敷地**	・課題①が解消される。	・岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。 ・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km） ・（新）小学校で一時的に適正規模を上回る見込みである。
学校統合案(11)			**藤が尾 小学校 敷地**	・課題①が解消される。	・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km） ・（新）小学校が一時的に適正規模を上回る見込みである。
学校統合案(12)		**岩船小学校・藤が尾小学校・ 私市小学校を統合**	**岩船 小学校 敷地**	・課題①が解消される。	・岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。 ・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km） ・（新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。
学校統合案(13)			**藤が尾 小学校 敷地**	・課題①が解消される。	・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km） ・（新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。
学校統合案(14)			**私市 小学校 敷地**	・課題①が解消される。 ・私市小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。	・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約4.1km） ・（新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。
小中学校 統合案(3)		**岩船小学校・私市小学校・ 第四中学校を統合**	**第四 中学校 敷地**	・課題①が解消される。	・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.3km）
小中学校 統合案(4)		**岩船小学校・藤が尾小学校・ 私市小学校・第四中学校 を統合**	**第四 中学校 敷地**	・課題①が解消される。 ・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。	・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.3km） ・（新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。
校区変更案(1)		**藤が尾小学校区にて小中一貫教育実践校を設置する。（藤が尾小学校区が新しい中学校区となる。）**	**—**	・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。	・第四中学校が小規模化する見込みである。 ・課題①が残る。 （・星田駅北の開発による児童生徒数の増加を注視しながら進める必要がある。）
校区変更案(2)	② 将来的な 藤が尾小学校 の小規模化	**1)藤が尾小学校区にて小中一貫教育実践校を設置する。（藤が尾小学校区が新しい中学校区となる。） 2)岩船小学校・私市小学校を統合する。**	**1)藤が尾 小学校 敷地 2)岩船 小学校 敷地**	・（新）小中学校区で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。 ・課題①が解消される。	・第四中学校が小規模化する見込みである。 ・通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km） （・星田駅北の開発による児童生徒数の増加を注視しながら進める必要がある。）
校区変更案(3)			**1)藤が尾 小学校 敷地 2)私市 小学校 敷地**	・（新）小中学校区で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。 ・課題①が解消される。	・第四中学校が小規模化する見込みである。 ・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.9km） （・星田駅北の開発による児童生徒数の増加を注視しながら進める必要がある。）
校区変更案(4)		**1)藤が尾小学校区にて小中一貫教育実践校を設置する。（藤が尾小学校区が新しい中学校区となる。） 2)岩船小学校・私市小学校・第四中学校を統合する。**	**1)藤が尾 小学校 敷地 2)第四 中学校 敷地**	＜（新）小中学校区（**藤小校区**）＞ ・（新）小中学校区（藤小校区）で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。 ＜（新）小中学校区（**岩小・私小校区**）＞ ・（新）小中学校区（岩小・私小校区）で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。 ・課題①が解消される。	＜（新）小中学校区（**藤小校区**）＞ （・星田駅北の開発による児童生徒数の増加を注視しながら進める必要がある。） ＜（新）小中学校区（**岩小・私小校区**）＞ ・将来的に（新）小中学校（岩小・私小校区）の中学校が小規模化する見込みである。 ・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.3km）
校区変更案(5)			**1)藤が尾 小学校 敷地 2)岩船 小学校 敷地**	＜（新）小中学校区（**藤小校区**）＞ ・（新）小中学校区（藤小校区）で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。 ＜（新）小中学校区（**岩小・私小校区**）＞ ・（新）小中学校区（岩小・私小校区）で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。 ・課題①が解消される。	＜（新）小中学校区（**藤小校区**）＞ （・星田駅北の開発による児童生徒数の増加を注視しながら進める必要がある。） ＜（新）小中学校区（**岩小・私小校区**）＞ ・将来的に（新）小中学校（岩小・私小校区）の中学校が小規模化する見込みである。 ・通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km） ・岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
校区変更案(6)			**1)藤が尾 小学校 敷地 2)私市 小学校 敷地**	＜（新）小中学校区（**藤小校区**）＞ ・（新）小中学校区（藤小校区）で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。 ＜（新）小中学校区（**岩小・私小校区**）＞ ・（新）小中学校区（岩小・私小校区）で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。 ・課題①が解消される。 ・私市小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。	＜（新）小中学校区（**藤小校区**）＞ （・星田駅北の開発による児童生徒数の増加を注視しながら進める必要がある。） ＜（新）小中学校区（**岩小・私小校区**）＞ ・将来的に（新）小中学校（岩小・私小校区）の中学校が小規模化する見込みである。 ・通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.9km）

【 斜線のある配置案について 】

一番左の列の「案名称」に斜線のある配置案は、赤字で記載のデメリットを含んでいる。

【 赤字で記載のデメリットについて 】

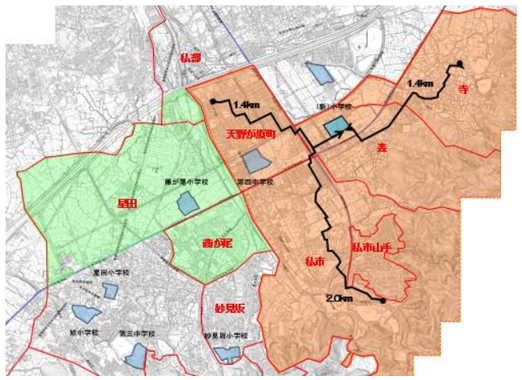
学校規模適正化基本計画において、教育環境上望ましくないと考えられるデメリットで、第四中学校区の学校適正配置案では、以下の①がある。

①通学距離が学校規模適正化基本方針で定めた許容範囲を超えるような場合

学校統合案(8)(9)(10)(11)

学校統合案(8)

【概要】岩船小学校と私市小学校を統合し、岩船小学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）

【メモ】

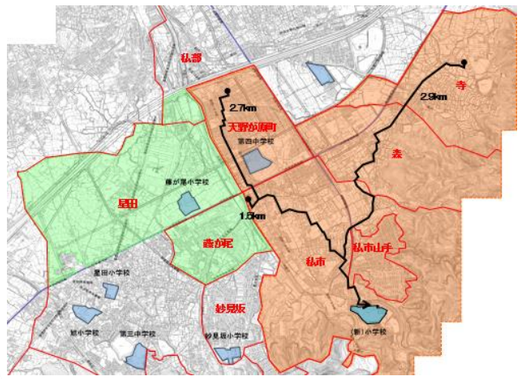
児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	535	621	552	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	414	357	325	303
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
藤が尾小学校（全体）	349	291	493	708	667	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	349	291	264	223	196	181	169
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－
（新）小学校	747	720	684	600	532	487	452

※（新）小学校：岩船小校区・私市小校区の児童が就学

学校統合案(9)

【概要】岩船小学校と私市小学校を統合し、私市小学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 私市小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.9km）

【メモ】

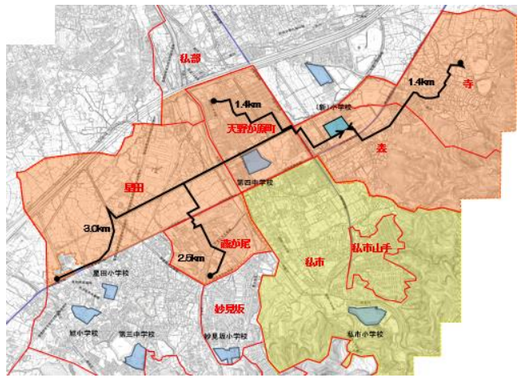
児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	535	621	552	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	414	357	325	303
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
藤が尾小学校（全体）	349	291	493	708	667	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	349	291	264	223	196	181	169
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－
（新）小学校	747	720	684	600	532	487	452

※（新）小学校：岩船小校区・私市小校区の児童が就学

学校統合案(10)

【概要】岩船小学校と藤が尾小学校を統合し、岩船小学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km）
- （新）小学校で一時的に適正規模を上回る見込みである。

【メモ】

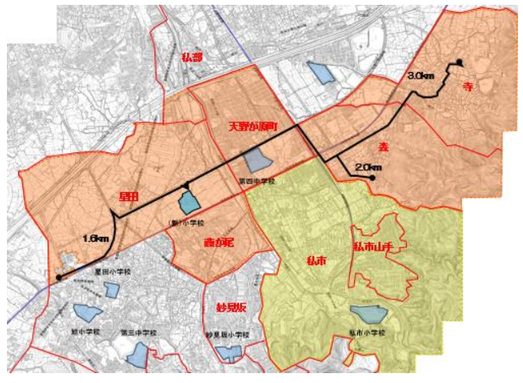
児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	535	621	552	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	414	357	325	303
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
私市小学校	381	384	385	327	294	269	252
（新）小学校（全体）	715	627	792	981	905	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	715	627	563	496	434	399	369
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－

※（新）小学校：岩船小校区・藤が尾小校区の児童が就学

学校統合案(11)

【概要】岩船小学校と藤が尾小学校を統合し、藤が尾小学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km）
- （新）小学校で一時的に適正規模を上回る見込みである。

【メモ】

児童生徒数（人）

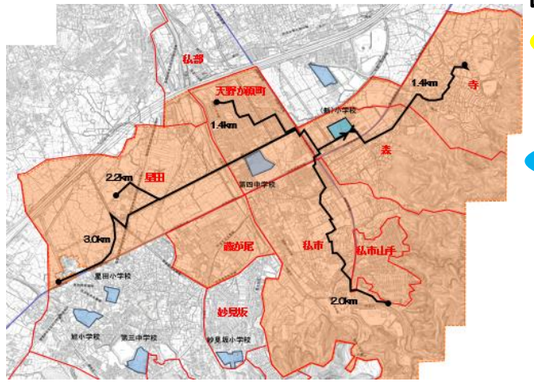
	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	535	621	552	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	414	357	325	303
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
私市小学校	381	384	385	327	294	269	252
（新）小学校（全体）	715	627	792	981	905	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	715	627	563	496	434	399	369
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－

※（新）小学校：岩船小校区・藤が尾小校区の児童が就学

学校統合案(12)(13)(14)

学校統合案（12）

【概要】岩船小学校・藤が尾小学校・私市小学校を統合し、岩船小学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km）
- （新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

【メモ】

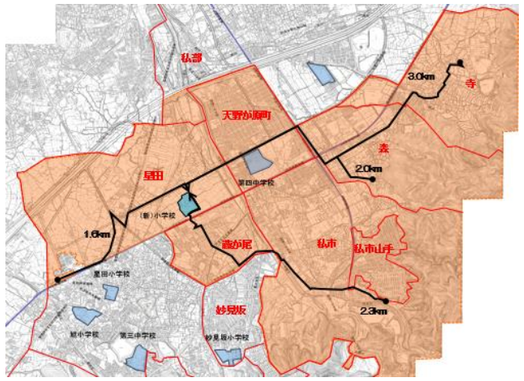
児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	535	621	552	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	414	357	325	303
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
（新）小学校（全体）	1096	1011	1177	1308	1199	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	1096	1011	948	823	728	668	621
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－

※（新）小学校：岩船小校区・藤が尾小校区・私市小校区の児童が就学

学校統合案（13）

【概要】岩船小学校・藤が尾小学校・私市小学校を統合し、藤が尾小学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約3.0km）
- （新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

【メモ】

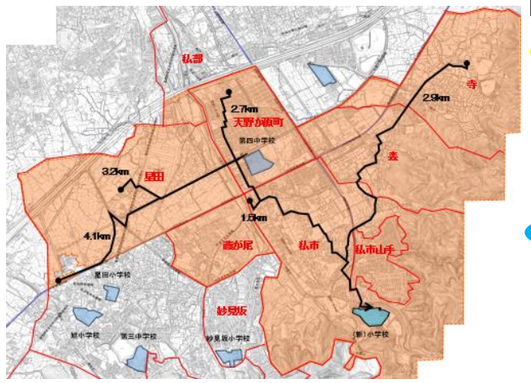
児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	535	621	552	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	414	357	325	303
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
（新）小学校（全体）	1096	1011	1177	1308	1199	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	1096	1011	948	823	728	668	621
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－

※（新）小学校：岩船小校区・藤が尾小校区・私市小校区の児童が就学

学校統合案（14）

【概要】岩船小学校・藤が尾小学校・私市小学校を統合し、私市小学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 私市小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約4.1km）
- （新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

【メモ】

児童生徒数（人）

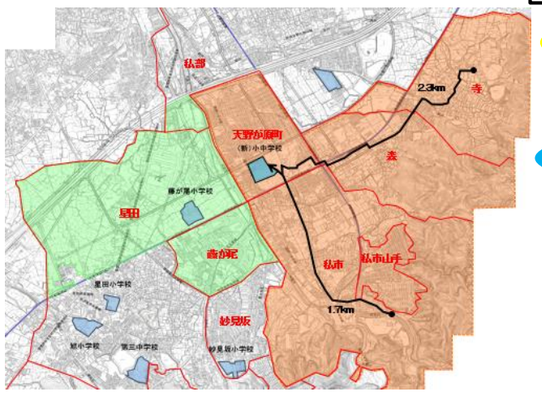
	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
第四中学校（全体）	567	510	520	535	621	552	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	414	357	325	303
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
（新）小学校（全体）	1096	1011	1177	1308	1199	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	1096	1011	948	823	728	668	621
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－

※（新）小学校：岩船小校区・藤が尾小校区・私市小校区の児童が就学

小中学校統合案(3)(4)・校区変更案(1)

小中学校統合案(3)

【概要】岩船小学校・私市小学校・第四中学校を統合し、第四中学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.3km）

【メモ】

児童生徒数（人）

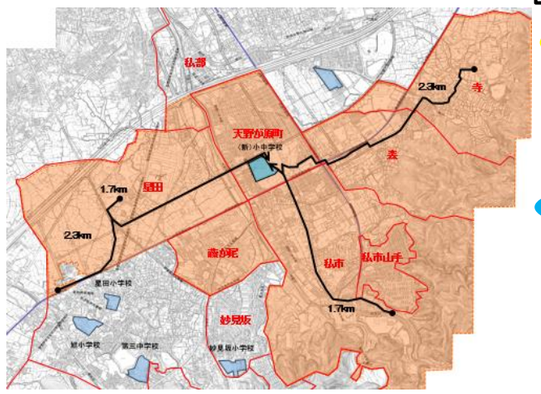
	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
（新）中学校（全体）	567	510	520	535	621	552	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	414	357	325	303
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
藤が尾小学校（全体）	349	291	493	708	667	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	349	291	264	223	196	181	169
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－
（新）小学校	747	720	684	600	532	487	452

※（新）中学校：第四中校区の生徒が就学

※（新）小学校：岩船小校区・私市小校区の児童が就学

小中学校統合案(4)

【概要】岩船小学校・藤が尾小学校・私市小学校・第四中学校を統合し、第四中学校敷地に新しい学校を設置



メリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.3km）
- （新）小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

【メモ】

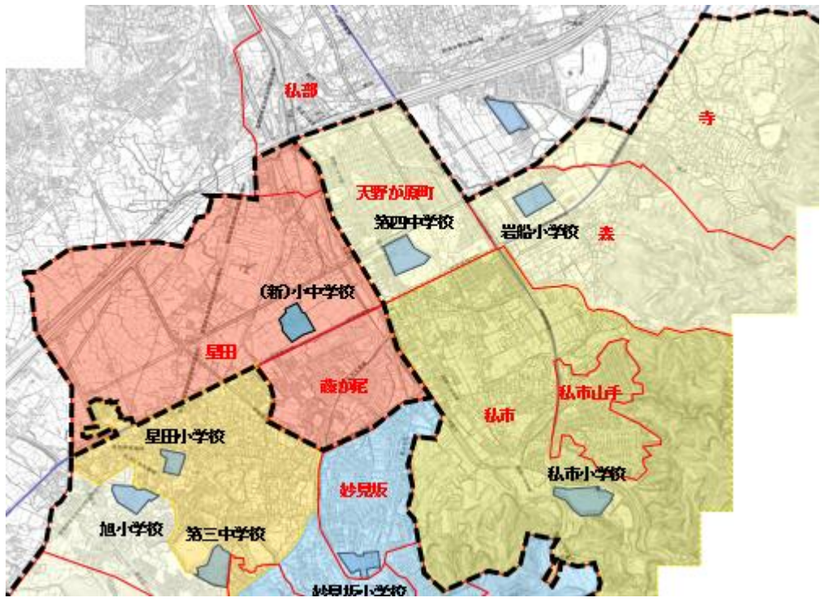
児童生徒数（人）

	H28	R2	R7	R12	R17	R22	R27
（新）中学校（全体）	567	510	520	535	621	552	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	567	510	458	414	357	325	303
（星田北6・7丁目増加分）			62	121	264	227	－
（新）小学校（全体）	1096	1011	1177	1308	1199	－	－
（星田北6・7丁目増加分以外）	1096	1011	948	823	728	668	621
（星田北6・7丁目増加分）			229	485	471	－	－

※（新）中学校：第四中校区の生徒が就学

※（新）小学校：岩船小校区・藤が尾小校区・私市小校区の児童が就学

校区変更案(1)



【概要】藤が尾小学校区を一つの中学校区とし、藤が尾小学校敷地に小中一貫教育実践校を設置。第四中学校区は、岩船小学校・私市小学校・第四中学校の２小１中となる。

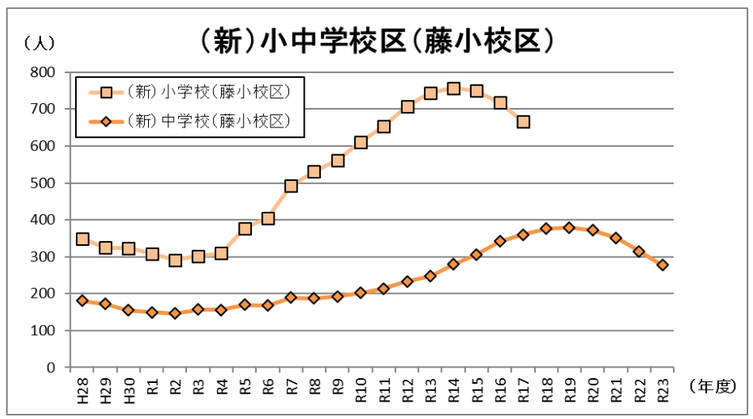
メリット

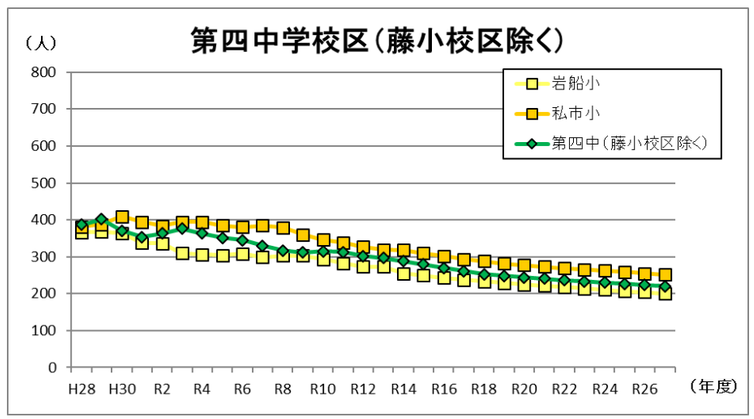
- （新）小中学校区で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。

デメリット

- 将来的に第四中学校が小規模化する見込みである。
- 将来的な岩船小学校の小規模化の課題が残る。
- 星田駅北の開発による児童生徒数の増加を注視しながら進める必要がある。
（令和２年推計では（新）小中学校区の中学校で、適正な学校規模を確保することが難しい見込みである。）

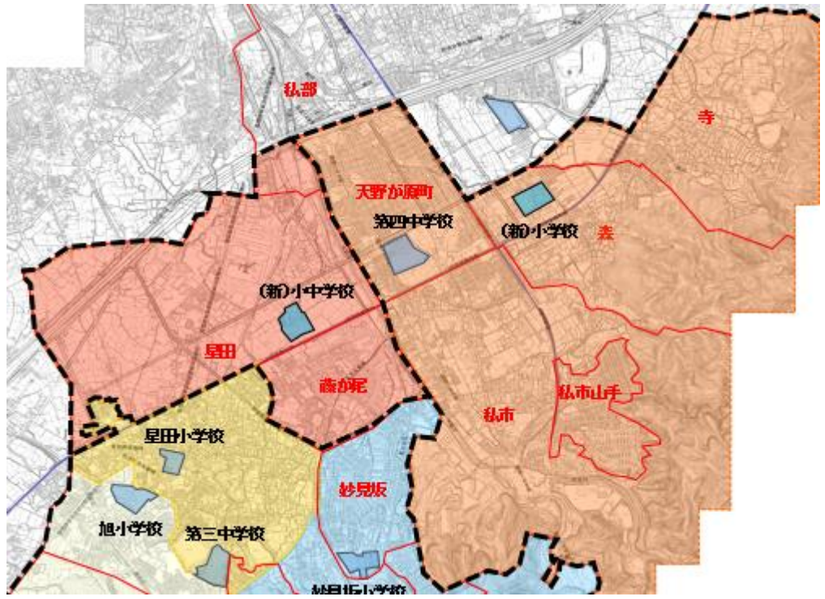
【メモ】





校区変更案(2)(3)

校区変更案(2)



【概要】藤が尾小学校区を一つの中学校区とし、藤が尾小学校敷地に小中一貫教育実践校を設置。また、岩船小学校・私市小学校を統合し、現在の岩船小学校敷地に新しい小学校を設置。第四中学校区は、（新）小学校（岩小・私小の統合校）・第四中学校の１小１中となる。

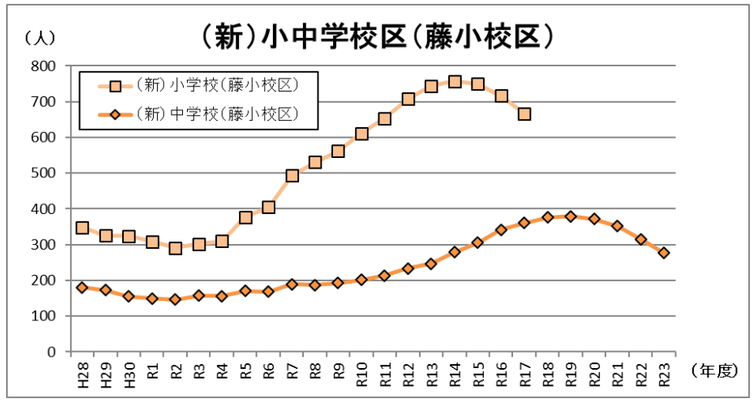
【メモ】

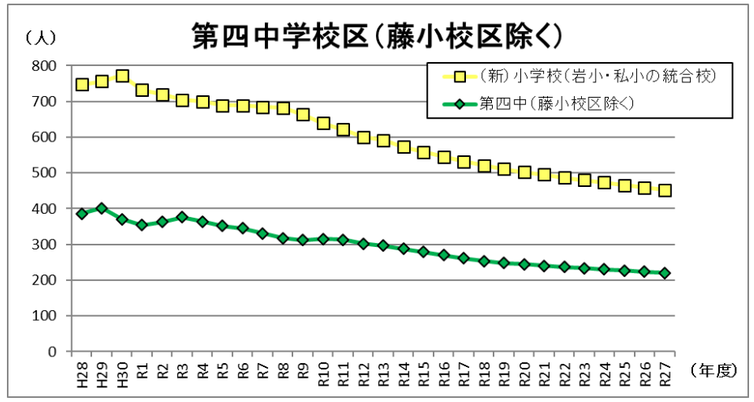
メリット

- （新）小中学校区で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。
- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

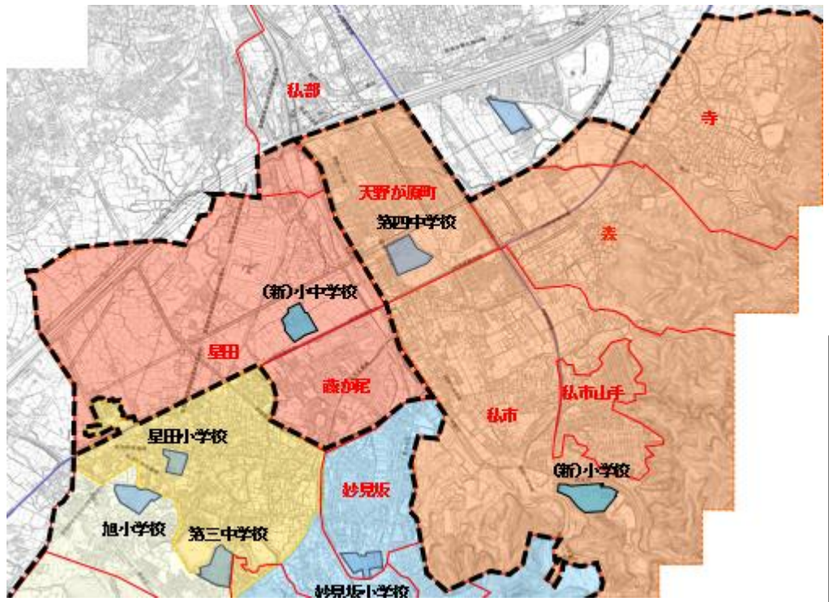
デメリット

- 将来的に第四中学校が小規模化する見込みである。
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）
- 星田駅北の開発による児童生徒数の増加を注視しながら進める必要がある。
（令和２年推計では（新）小中学校区の中学校で、適正な学校規模を確保することが難しい見込みである。）





校区変更案(3)



【概要】藤が尾小学校区を一つの中学校区とし、藤が尾小学校敷地に小中一貫教育実践校を設置。また、岩船小学校・私市小学校を統合し、現在の私市小学校敷地に新しい小学校を設置。第四中学校区は、（新）小学校（岩小・私小の統合校）・第四中学校の１小１中となる。

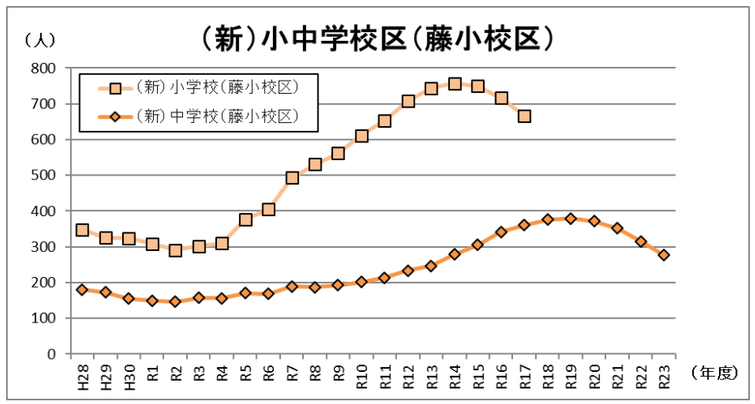
【メモ】

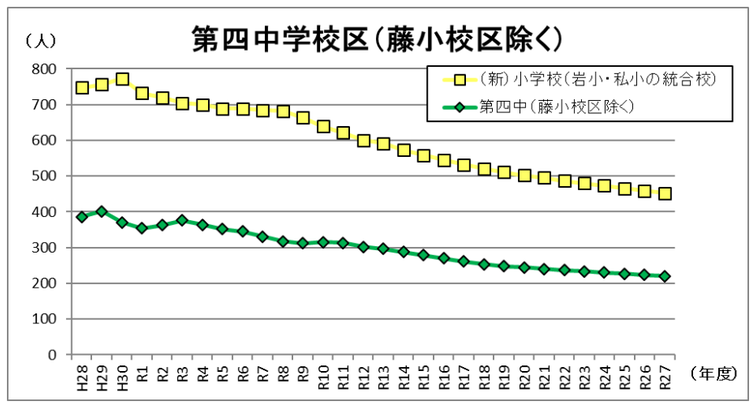
メリット

- （新）小中学校区で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。
- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

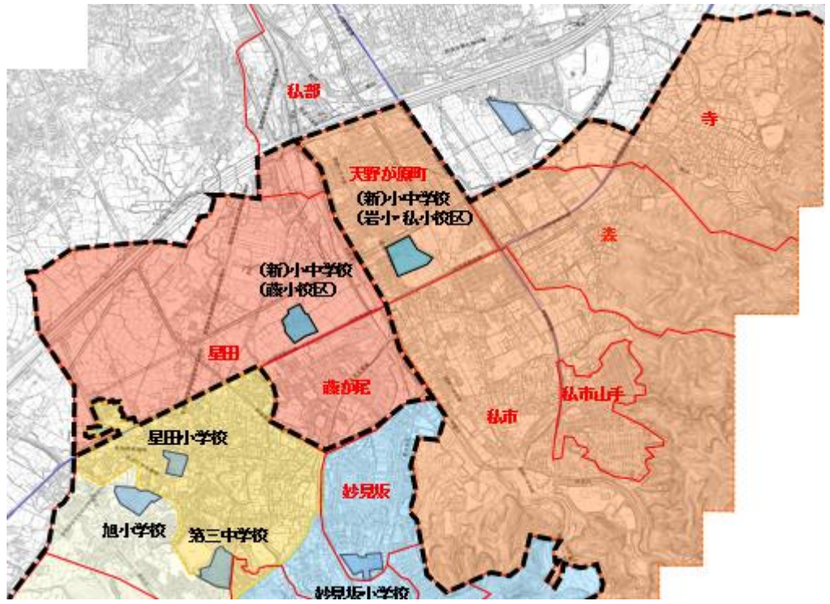
- 将来的に第四中学校が小規模化する見込みである。
- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.9km）
- 星田駅北の開発による児童生徒数の増加を注視しながら進める必要がある。
（令和２年推計では（新）小中学校区の中学校で、適正な学校規模を確保することが難しい見込みである。）





校区変更案(4)

校区変更案(4)



【メモ】

【概要】藤が尾小学校区を一つの中学校区とし、藤が尾小学校敷地に小中一貫教育実践校を設置。
また、岩船小学校・私市小学校・第四中学校を統合し、現在の第四中学校敷地に小中一貫教育実践校を設置。

＜（新）小中学校区（**岩小・私小校区**）＞

メリット

- （新）小中学校区（岩小・私小校区）で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。
- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 将来的に（新）小中学校（岩小・私小校区）の中学校が小規模化する見込みである。
- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.3km）

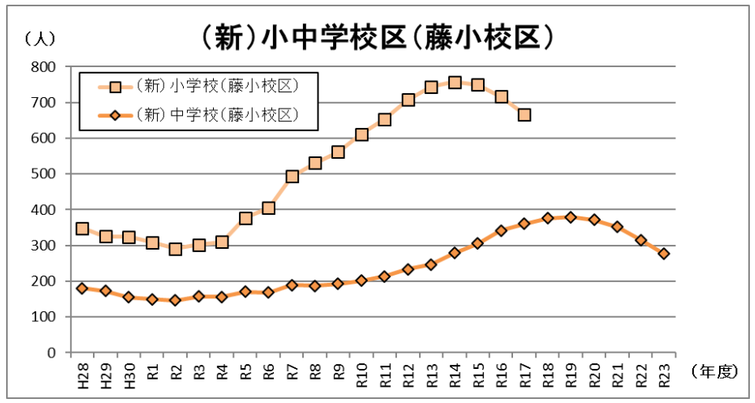
＜（新）小中学校区（**藤小校区**）＞

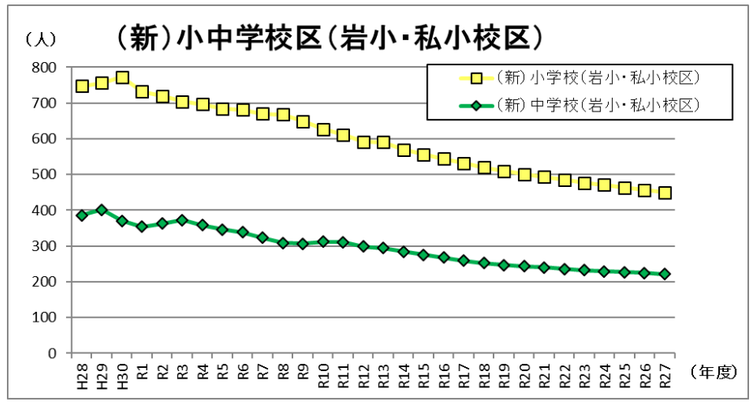
メリット

- （新）小中学校区（藤小校区）で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。

デメリット

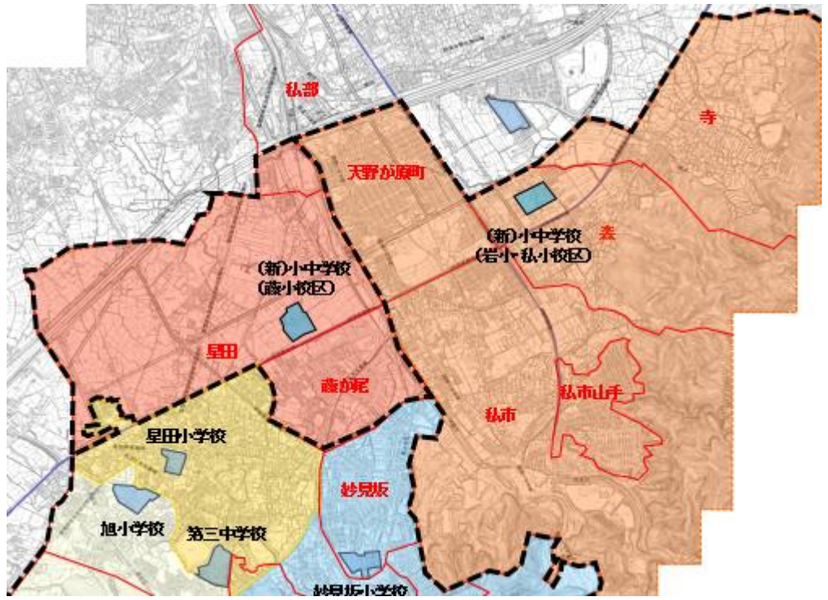
- 星田駅北の開発による児童生徒数の増加を注視しながら進める必要がある。
（令和２年推計では（新）小中学校区の中学校で、適正な学校規模を確保することが難しい見込みである。）





校区変更案(5)

校区変更案(5)



【概要】藤が尾小学校区を一つの中学校区とし、藤が尾小学校敷地に小中一貫教育実践校を設置。
また、岩船小学校・私市小学校・第四中学校を統合し、現在の岩船小学校敷地に小中一貫教育実践校を設置。

＜（新）小中学校区（**岩小・私小校区**）＞

メリット

- （新）小中学校区（岩小・私小校区）で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。
- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 将来的に（新）小中学校（岩小・私小校区）の中学校が小規模化する見込みである。
- 通学距離が延びる地域がある。（最長約2.0km）
- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。

＜（新）小中学校区（**藤小校区**）＞

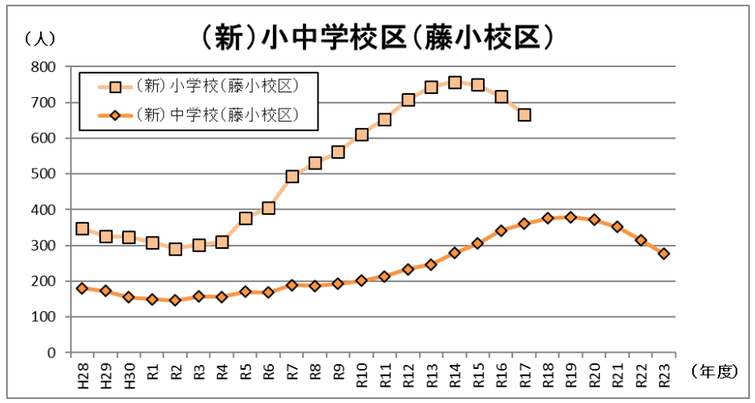
メリット

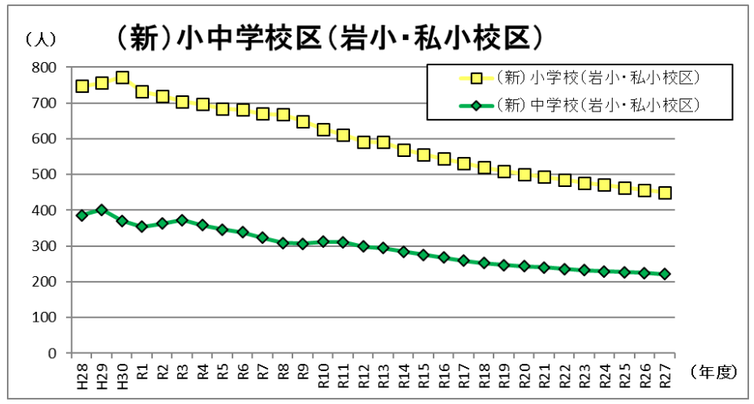
- （新）小中学校区（藤小校区）で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。

デメリット

- 星田駅北の開発による児童生徒数の増加を注視しながら進める必要がある。
（令和２年推計では（新）小中学校区の中学校で、適正な学校規模を確保することが難しい見込みである。）

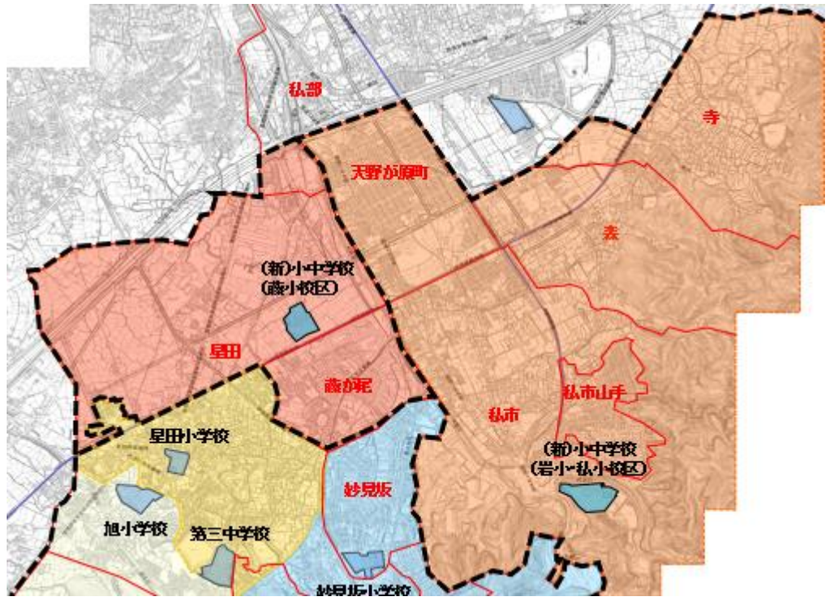
【メモ】





校区変更案(6)

校区変更案(6)



【概要】藤が尾小学校区を一つの中学校区とし、藤が尾小学校敷地に小中一貫教育実践校を設置。
また、岩船小学校・私市小学校・第四中学校を統合し、現在の私市小学校敷地に小中一貫教育実践校を設置。

＜（新）小中学校区（**岩小・私小校区**）＞

メリット

- （新）小中学校区（岩小・私小校区）で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。
- 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 私市小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

デメリット

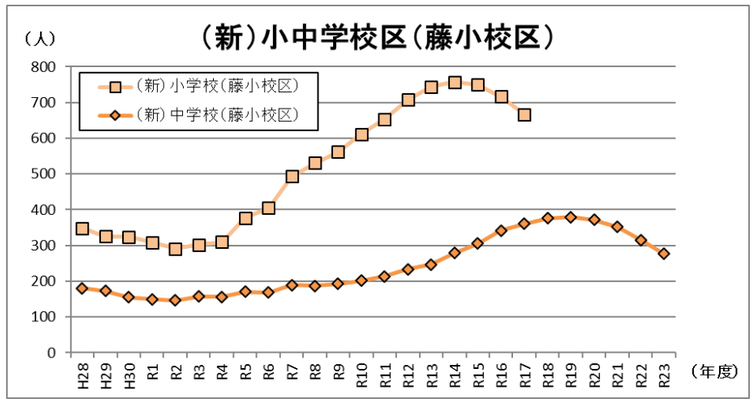
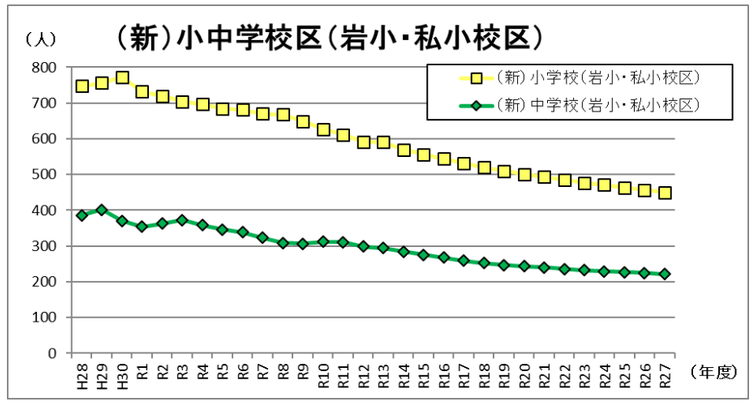
- 将来的に（新）小中学校（岩小・私小校区）の中学校が小規模化する見込みである。
- 通学距離が2kmを超える地域がある。（最長約2.9km）

＜（新）小中学校区（**藤小校区**）＞

メリット

- （新）小中学校区（藤小校区）で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。

デメリット

- 星田駅北の開発による児童生徒数の増加を注視しながら進める必要がある。
（令和２年推計では（新）小中学校区の中学校で、適正な学校規模を確保することが難しい見込みである。）

【メモ】